

## 輝くまちづくり交付金 実施報告書

## 1 事業内容

団体名	特定非営利活動法人 和 ボーダレスアートサポートセンターくしろ
事業名	「ボーダレスアートフェス in KUSHIRO」
課題テーマ	地域を担う人材育成
事業提案の背景	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障がい者アートの全国的な取組と国を含めた支援の拡大による高まり</li> <li>2. 釧路市障がい者芸術祭が5周年を迎え、着実な実績と今後への期待</li> <li>3. 1と2、地域の地道な活動と全国的潮流をつなげたい!</li> </ol>
事業目的	<p>テーマは「I am here (ぼくはここにいるよ)」</p> <p>この事業をきっかけに、障がい者・不登校者・ひきこもり・フリーターなどマイノリティな人たちを含めたすべての人の表現（発信）の場、生きがいの創出などを（継続的に）提供し、市民の理解も深め、共に生きる地域社会を目指す。</p>
事業概要	<p>イベント（アート展示）を中心に、INによるアートコンテンツ、ワークショップ、スタンプラリーなどの実施、SNSを活用したオリジナルのネット配信システムを用い、情報の発信・拡散を行い、地域のボーダレスアートへの周知と全道ネットネットワークの構築ができた。</p>
事業展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>ボーダレスアートワークショップ</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1-1. 【8月27・28日】日本のポップアートの第一人者であり、シゲチャンランドの運営者である大西重成氏による造形ワークショップ「シゲチャンがやってくる yey 家 yey いいねハウスワークショップ」</li> <li>1-2. 【9月20～23日】光の造形作家・富士翔太郎氏による「光の木ワークショップ」</li> <li>1-3. 【9月20～23日】植物細密画/版画作家・マシオン恵美香氏による「葉っぱのインスタントスプレーアート」</li> <li>1-4. 【9月20～23日】カラーセラピスト米澤はるみ氏による「パステルアートワークショップ」</li> <li>1-5. 【9月4日】出展作家（佐藤麻衣子氏）による出前アート講座で市内の児童デイサービスで子ども向けアート教室を開催</li> </ol> </li> <li>2. <b>ボーダレスアートコンテスト</b> <p>【9月4日～2月29日】マイノリティ、共生社会などのテーマでネットを中心に全国から作品を公募。インターネットを活用した人気投票により審査・講評を実施。</p> </li> <li>3. <b>アート「いいね」スタンプラリー</b> <p>【8月28日～9月30日】ラーメン屋、パン屋、スイーツ店など、計25店舗にアート作品を展示、スタンプラリーを実施。通常のスタンプと平行してスマホを活用したシステムを導入。QRコード、マップコードなど、楽しく情報を見ながら鑑賞できる仕組み。投票やコメントもスマホにより実施約12000リーチ取得。</p> </li> <li>4. <b>ボーダレスアートフェス開催</b> <p>【9月20～23日】作品展示、ワークショップ開催、ミニコンサートの実施、アートマーケット（東京・札幌・帯広のアートプロダクツ出展等）など</p> </li> </ol>

	<p><b>5. 情報発信・拡散システム</b>  5-1. 企画の告知や公募、ボランティアやワークショップへの参加募集などを SNS との複数リンクにより拡散した。  5-2. スマホやタブレット上でも作品、作家プロフィール、イベント状況などが見れ、ツーウェイでツイート、コメント、投票など届いた。  5-3. スタンプラリー、イベントでは、ネット上のライブ中継も行った。</p> <p><b>6. 他地域への巡回展示</b>  6-1. ボーダレスアート&amp;プロダクツ（札幌・大通美術館）展示参加  6-2. 北海道アールブリュット展（札幌・大通美術館）展示参加  本事業をきっかけにネットワークを構築、すでに本年度より巡回展示を実現できた。</p>
<p>成果目標の達成状況</p>	<p>作品発掘の当初の目標 10 作家/40 作品に対し、作家 93 名/作品 1000 点を越え大幅に規模拡大となった。●イベント集客数当初の目標 200 名に対し延べ約 2000 名を越え 10 倍以上の反響となった。協力・協賛企業 42 社。協賛個人 60 名。ボランティア 42 名。スタンプラリー参加数 500 名/応募数 26 名。コンテスト投票数 2789 件。  本事業をきっかけにネットワークとなった団体 8 団体（道外 3/道内 5）。</p>
<p>波及効果の達成状況</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アートが市民の身近になる。  →スタンプラリー参加店舗 25 件（参加数 500 名/応募数 26 名）  →アートフェス来場者数、延べ 2000 名を越える。</li> <li>2. アートを通じマイノリティの存在が身近になる。  →ボーダレスアート作品を活用したプロダクツの制作/販売がスタート。（札幌大通美術館/札幌大丸など）</li> <li>3. 2020 年パラリンピックを一つの目標に、障がい者の文化活動へのムーブメントとして展開しユニバーサルな街づくりのきっかけとなる。  →本事業をきっかけに全道的なムーブメントに発展、その中で釧路は注目される地域となった。（宿谷友美代表の NHK ニュースでの特集、北海道アールブリュット展でのバネラー出演）</li> <li>4. 地元を含め企業が（PA 等）この分野に関心を持つきっかけとなる。  （本事業に対して 42 社の企業が賛同し協力・協賛してくれました）</li> <li>5. 全国のボーダレスアートの先進地とのネットワーク構築につながる。  →道外 3 団体/道内 5 団体とのネットワークを構築。特に道内はずでに 3 つの事業を一緒におこなっている。</li> </ol>
<p>実施体制</p>	<p>NPO 法人 和就労支援スタッフ アート工房ピアスタッフ、ボランティア ボランティアネットワーク・チャレンジ隊&amp;サポーター 東高校等美術部学生ボランティア、一般公募によるクラフト作家さんたち 道内アート活動団体など</p>
<p>連携した市担当課</p>	<p>釧路市美術館、市役所福祉部障がい福祉課</p>
<p>連携した市担当課が果たすべき役割</p>	<p>実行委員会への参加、広報、公共施設への展示に係る調整</p>

## 2 支出決算書と支出内訳

(収入)

費目	決算額 (円)	内訳
輝くまちづくり交付金	500,000	
企業・個人協賛金	424,550	
自己資金	328,025	
合 計	1,252,575	

(支出)

費目	決算額 (円)	内訳
対象経費		
消耗品費	195,031	
宿泊費	18,380	
印刷費	176,150	
委託費	353,200	
使用料・賃借料	79,120	
交通費	1,340	
郵送運搬費	116,446	
謝礼	70,000	
小 計	1,009,667	
対象外経費		
駐車場代金	210	
広告掲載料	43,200	
グッズ制作費	183,600	
役務費	15,898	
小 計	242,908	
合 計	1,252,575	